

弘前城

築城年／慶長16(1611)年

城主／津軽氏

石高／10万石

存廃城／存城

所在地／青森県弘前市下白銀町

慶長16(1611)年築城され、以後津軽氏代々の居城となった。当初本丸南西部に五重の天守があったが、寛永4(1627)年に落雷により焼失。文化7(1810)年、現存する三重三階の天守が築かれた。明治維新を迎えても破却は免れ、天守を含む櫓4基、櫓門5基が現存する(国指定重要文化財)。



発見された古写真の撮影位置
(提供：弘前公園総合情報サイト)

盛岡城復元調査推進室では、盛岡城に関する未発見の史資料を探すため、土蔵内調査をはじめとする各種の調査を進めています。土蔵や古民家などでは絵図や古文書のほかに、幕末に舶来したカメラで撮影された古写真やそのネガ(ガラス湿板・乾板)が保管されていることもあり、ある調査では、様々な城郭の当時の姿を残した写真が発見されました。

今回は、その一部である弘前城天守の古写真をご紹介します！



今回ご紹介する資料は土蔵内の写真○部分から発見されました。土蔵内には、明治初年から昭和初期までの写真プリントやネガのほか、カメラ機材も多数保管されていました。この蔵の持ち主であった当時の先祖はカメラや写真に関心が高かったのかもしれない。

どうして発見されたの？



本丸御殿(表書院)
土蔵

天守

武者屯門

本丸御殿
(玄関・御用所)

木柵

下乗橋

多間櫓

弘前城二の丸から見た本丸及び天守(明治4～6年)【個人蔵】

この古写真は、盛岡藩御用商人末裔の土蔵から発見されたもので、ネガはありませんでした。調査の結果「青森県史デジタルアーカイブス」での公開資料と同じ構図と判明しましたが、発見されたものはそれよりも画角が広く、よりオリジナルに近い写真です。先祖が弘前旅行の土産に購入したものでしょうか。写真は、二の丸から本丸と天守(御三階櫓)を撮影したものです。手前に複数の人物を配置し、対象の大きさを分かりやすく比較しています。これは、幕末・明治初期の写真でよく利用される手法です。天守の右側には銅板葺の多間櫓と土堀、その奥に本丸御殿(明治6年解体)の大屋根と妻部分が見えます。この建物は、藩士が勤務し、藩の仕事を行った場所、玄関、広間、御用所などが置かれていました。天守左側には一部解体された土堀、その奥に土蔵と本丸御殿の表書院(藩の公式儀式を行う場所)の屋根根が見えます。天守手前には欄干に擬宝珠のある下乗橋、その先に武者屯(たまり)門があり、ここを通過して本丸に入ります。内濠の斜面側には木柵が巡らされていたことがわかります。撮影年代は、弘前藩が版籍奉還した明治4年から本丸御殿が解体される同6年までの期間と考えられます。



石垣修復工事で曳家された本丸天守

古写真は、往時の人々が見ていた建物や風景そのものの姿をリアルに感じられる貴重な資料です。皆さんの自宅にも、盛岡城が写る古い写真が眠っているかもしれません。発見された場合は、下記までご連絡ください！

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。

